

建築設計とは 物理作用のコントロール！ 福山 弘

朝倉幸子◎TH-1
illustration:Taco

■ 思い出のヘルシンキ

1978年生まれの建築家でエンジニアの福山弘さんは、神奈川県川崎市の出身。事務所も住まいも川崎で、幼い頃からものづくりは好きだった。今は、空き箱でつくるガシャガチャを6歳と9歳の二人のお嬢さんと一緒に楽しむ。「夜型だったのが今は朝型。融通がきく仕事でよかった」。世代的にそんな構造家が増えたと編集長がいう。

東京大学工学部都市デザイン研究室を卒業後、同大学院では農学生命科学研究科木質材料学研究室に所属。博士論文のテーマは木ダボの研究でした。2006年からフィンランド政府奨学金研究員として、ヘルシンキ工科大学に1年留学。教育大国だけあり、総じてレベルが高く、若者は英語でのコミュニケーションは普通にできるそうだ。9月頃のフィンランドは、すでに肌寒く、留学直後にアウターを買うことになったとか。また、「極寒の12月頃にオートロックに締め出されて、死ぬ思いをしたことがあった」と笑顔で思い出話。

2015年から福山弘 構造デザイン (2020年より Hafnium architects) を主宰。それ以前は、稲山建築設計事務所 (現 ホルツストラ) でいくつかのプロジェクトに携わる。と同時に、フリーランスで建築やプロダクトデザインをしながら、東京大学で特任助教、日本女子大学の助手を務めてきた。Hafnium (ハフニウム) のネーミングは自身のイニシャルからというが、物理学者である父親の影響はなかったのか。

■ 意匠設計と構造設計と

設計とはさまざまな与条件に対してのものをつくる作業と位置付ける。そこには意匠設計だけとか構造設計だけということではなく、一体化しているのが設計であると。今は建築の意匠設計と構造設計を行うオールラウンドなデザイナーであり、エンジニアの福山さんだ。また、若いころにしたストリートファニ

チャデザインのアルバイトや、ウッドプラスチックを使った流通用パレットの設計で、機械系3次元FEMを使って製品化した経験も役立っているそうだ。

2018年に埼玉県狭山市にある安永寺の本堂が完成した。ウッドデザイン賞のハートフルデザイン部門で林野庁長官賞を受賞した、美しい光の寺。CLTとヒノキの屋根に光が織りなす。中心のヒノキの垂木を受けるリングは空気の流れも兼ねる。当初はCLTの補助金を当てにしたが叶わず、予算的に幹線道路側の三角の困難な条件の敷地となった。ならばと、RCの閉じた躯体にしてガラス枠を兼ねた細身の鉄骨で木の屋根を浮かせた。昼間は自然光、夜間は温かい灯りを当てて魅せる光の本堂ができたのです。

また、鳥取県米子市に本社をもつ、ミヨシ産業の広島営業所は薄いCLTで設計した。3Dトラスを面 (CLT) と線 (ロッド) でつくった天井はダイナミック。現在は、本社も施工中とのことで完成が待ち遠しい。他にも、恵那駅前のバスシェルタなど、意匠と構造が融合した美しいデザインを手掛けてきた。

スタッフの勉強や自分の視野を広げるために建築家とのコラボレーションも避けてはいない。公共建築にもトライして善戦中。何にでもきちん和目を通す福山さんは、本連載の表題“施工者に幸あれ”の意味を聞いてくれた。覇志堂が、筆者が施工者であり構造家との協働が多いので、その中に少しでも幸があればというエールを込めて付けたのですと答える。

福山弘さん設計の建物の施工は、速やかな構造的判断を仰げるはずなので、施工管理者にとっては幸があるだろう。構造設計あってこそその意匠設計であるという、まとまりとなったのでした。

